

みえ 県議会 新聞

令和4年度(2022年度)NO.2

みえ県議会新聞は、年に2回発行しています。
NO. 2では、令和4年度の議会の取り組みについて、次のとおり各紙面でお伝えします。

1 ページ



みえ現場de県議会を開催

2 3 ページ



みえ高校生県議会
開催レポート

4 ページ



条例・広聴広報の取り組み

みえ現場de県議会を開催

三重県議会では、県民の皆さんの多様な意見を県議会での議論に反映していくため、テーマを設定し、県民の皆さんから直接意見を聞く「みえ現場de県議会」を平成22年度から開催しています。令和4年度は、「人口減少対策 ～移住による地域おこし～」をテーマに、大台町で開催しました。

テーマ 「人口減少対策 ～移住による地域おこし～」

三重県では、年々加速する人口減少問題に取り組むため、令和4年度を「人口減少対策元年」として推進体制の整備を行っています。人口減少は、都市、集落機能や地域活力の低下といったさまざまな影響があることから、対策として県内の各市町ではさまざまな取り組みが実施されています。その一つに移住の促進による地域活性化があり、県としても市町の取り組みを把握し、連携して施策を進めていくことが一層重要となっています。

また、8月22日に開催した「みえ高校生県議会」においても、三重県の地域活性化には移住者の増加が必要なことや、実際に移住してもらうための支援策について提案がありました。

そこで今回は、「人口減少対策」をテーマに、移住政策や地域おこしなどの活動を通じて地域を盛り上げている方々と、人口が減少する中、どう地域活力を高めていくか、取り組みの実情を踏まえて意見交換を行いました。

日時 令和4年11月17日(木) 13:30～16:00

場所 グリーンプラザおおだい 多目的ホール

主催 三重県議会 広聴広報会議

参加者 ○大台町で地域を盛り上げている方々 6人

○三重県議会議員 10人 (議長、広聴広報会議座長(副議長)、広聴広報会議委員、総務地域連携デジタル社会推進常任委員長、戦略企画雇用経済常任副委員長)

アナウンサーとして県内で活動していたが、大台町行政番組「お～ちゃん」のキャスターとして採用されたことをきっかけに大台町に通うようになった。以前は四日市市に住んでいたが、通うには遠かったことから大台町役場の皆さんに大台町は住みやすいところだよと紹介してもらい、地域おこし協力隊のお話をいただいて大台町に移住することになった。

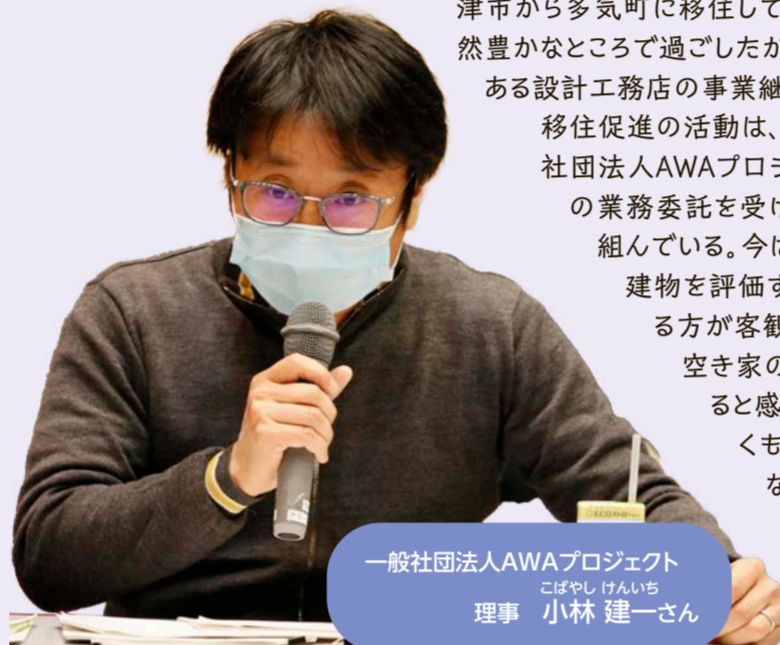


大台町観光協会
にしぐち まみ
西口 菜実さん

協力隊退任後は大台町観光協会勤務しており、フォトコンテストやフォトツアーの開催、展示会などを企画して大台町の観光をPRしている。課題としては、町内の観光地の認知度不足が考えており、YouTubeやSNSなどさまざまなメディアでの発信に力を入れている。今後は地域住民の方が主体となる観光地を目指していきたいと思っている。

津市から多気町に移住しており、きっかけは、家族が自然豊かなところで過ごしたかったことに加えて、大台町にある設計工務店の事業継承者がいなかったこと。

移住促進の活動は、有志が集まった団体の一般社団法人AWAプロジェクトを通して、大台町からの業務委託を受けて、主に空き家対策に取り組んでいる。今は住宅調査などを行っており、建物を評価することで次に住もうとしている方が客観的に判断しやすくなるため、空き家の流通が活性化されてきていると感じる。空き家は廃棄されていくものではなく、大台町の大切な資源であり財産であるという考えで、可能性や活用方法を考えてそれを実現するために活動している。



一般社団法人AWAプロジェクト
こばやし けんいち
理事 小林 建一さん



株式会社Verde大台ツリズム
のだ あやこ
代表取締役 野田 綾子さん

愛知県から大台町に移住してきた。家族で家を持つというタイミングで、長く暮らしていくことのできる場所を探しているとき、たまたま大台町に住みたい物件があったことがきっかけで移住した。10年間ほど暮らした感想としては、とても住みやすく満足している。

移住してからは一年半、大台町観光協会勤務、アウトドアプログラムのコンテンツ化が地域に必要なのではないかと感じてVerde大台ツリズムを立ち上げた。大台町には素晴らしいエリアがあるので、1人でも多くの人にこの地域の自然の豊かさを知ってほしいと思い、地域の魅力を作って発信するという意識で活動している。特に、地域ブランディングにつながるコンテンツ作りが大事だと考えている。



大台町役場企画課
みやもと ほまれ
宮本 誉さん

大台町では年々進行する人口減少に伴い空き家が増えており、平成24年度から空き家バンク制度を創設し、空き家の利活用を進めている。さらに、昨年7月から空き家バンクの運営や相談窓口業務を一般社団法人AWAプロジェクトに業務委託しており、これまで行政のみで対応していた空き家バンクの運営や、空き家の利用希望者からの相談に対して柔軟で的確な対応ができると期待している。

空き家利用者の方の中には民泊やカフェを起業される方もおり、移住者に活動拠点として町内の空き家を利用してもらえるよう、令和2年度から地方創生推進交付金を活用し、利活用可能と思われる空き家の掘り起こしや人材育成のための講座を開講するなど、それぞれのニーズに合わせたサポート事業を提供している。本年7月からは、空き家バンク登録物件を改修した際に最高100万円を助成する補助金を創設しており、活発な空き家の利活用につなげていきたい。

私が大台町に移住したきっかけは仕事。もともと大台町には宮川高校と昴学園の二つの高校があったが、宮川高校が廃校になり、昴学園も長年定員割れが続いていて、このままでは学校がなくなってしまうという状況で、大台町で地域おこし協力隊として学校運営のサポートを行う人材を募集していたため、移住してきた。

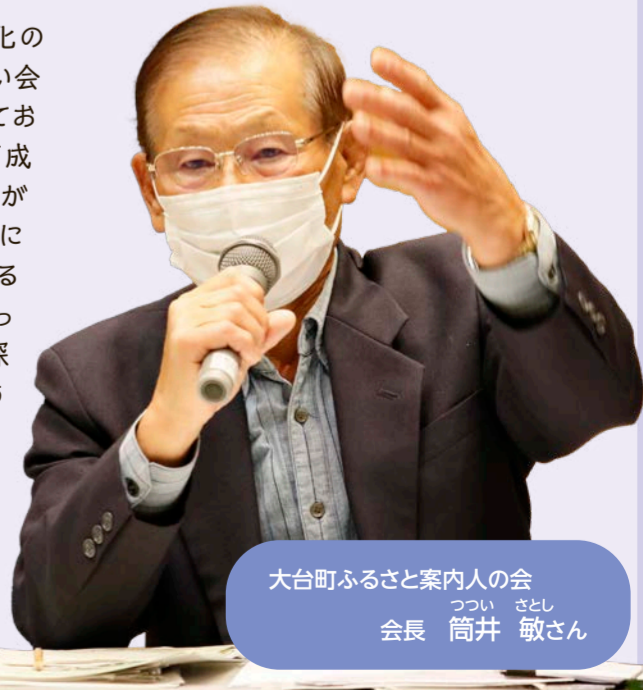


昴学園高等学校
やまだ よしたけ
山田 能健さん

昴学園には多くの魅力があり、中でも大規模の寮で学んでいる公立学校というのは、全国的にも珍しい点だと思う。道の駅のイベントに参加したり、地元のお祭りに生徒を連れていってお手伝いをしたり、他校ではできないような、地域との関わりをもてる学校という点をPRしていけば、全国から学生が集まる魅力ある学校にできると思って活動をしている。

ふるさと案内人の会は、平成の大合併を機に結成し、町の自然環境と歴史を基にした地域おこしを、町民の皆さんの協力をいただきながら16年間行ってきた。地域の学校で歴史や自然を知ってもらう講座などに積極的に取り組んでおり、最近はVISIONへの遠足など親子で参加できる屋外行事も行っている。

人口減少や高齢化の影響もあるのか、若い会員が少なくなってきており、思うように人材育成ができていないことが課題。子供たちと親に興味を持ってもらえると、町の良さも分かって地域への関心が深まり、定住してもらうことや将来の活動にもつながると思うので、学校行事との関わりを大切にして地域づくりに取り組んでいきたい。



大台町ふるさと案内人の会
ついで さとし
会長 筒井 敏さん

※意見交換の中から、主な意見を掲載しています。なお、当日の概要は、三重県議会ホームページでご覧いただけます。

皆さんからいただいたご意見は、全議員で共有し、県政への反映につながるよう取り組んでいきます。



みえ現場de県議会